

しもないぜん ち く ひおど  
 下内膳地区の火踊り

所在地：洲本市 下内膳



「火踊り」南あわじ市 井上淳一氏撮影（第2回淡路島景観フォトコンテスト 応募作品）

火踊りは、毎年、8月16日に行われるお盆の送り火で、鎌倉時代から続くと言われている、全国的にもあまり例のない珍しい伝統行事です。

下内膳地区では、墓石のある参り墓と遺体を埋葬する捨て墓の「両墓制」が古くから受け継がれてきました。火踊りは、捨て墓で行われます。

火踊りでは、2mほどの荒縄に取り付けた松明を十数人の男性が数十分間、勇壮に振り回します。松明で埋葬した場所を明るく示すことで、先祖の霊を送り出せるといわれています。松明は、火勢が弱まると丘の斜面に放り投げられ、炎は捨て墓を包むように広がります。

- 【景観の特徴】
- 自然がつくりだす景観
  - 歴史がつくりだす景観
  - ✓ 生活・文化がつくりだす景観
  - 新しくつくりだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道洲本ICから、県道469号線、県道474号線へ。車で約15分。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図